



写

資料3 - 2

愛運企第5号
平成31年4月23日

長久手市地域公共交通会議 会長 殿

中部運輸局愛知運輸支局長



地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果の通知について

地域公共交通確保維持改善事業実施要領に基づき実施した二次評価について、結果が確定したので別添のとおり通知します。

なお、評価結果については、下記の点を留意されたい。

記

- ・評価結果については、次年度計画に確実に反映すること。
- ・評価結果については、中部運輸局ホームページにおいて公表したので了知されるとともに、協議会等ホームページにおいても積極的に公表されたい。

平成 29・30 年度地域公共交通確保維持改善事業
第三者評価委員会 結果概要

平成 31 年 4 月 22 日
中部運輸局交通支援室

1. 地域公共交通確保維持改善事業の実施状況

「地域公共交通確保維持改善事業」は、生活交通の存続が危機に瀕している地域等を支援することを目的に平成 23 年度に創設され、実施されているところです。中部運輸局管内では、地域公共交通確保維持事業 73 件（地域間幹線系統 5 件、地域内フィーダー系統 66 件、離島航路 2 件）、地域公共交通調査等事業 19 件（地域公共交通調査事業（計画策定事業）8 件、地域公共交通調査事業（計画推進事業）8 件、地域公共交通再編推進事業（再編計画推進事業）3 件）が、各協議会等において実施されています。（平成 30 年度実績）

2. 事業評価（自己評価及び二次評価）の実施

中部運輸局では、毎年、地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通調査等事業を実施している各協議会から提出された自己評価に対して二次評価を実施しており、実施要領等の定めにより選定された協議会を対象に 2 月 20 日、21 日、22 日の 3 日間で「第三者評価委員会」（別紙 1）を開催しました。

平成 29・30 年度の事業評価においては、「交通圏」を意識した事業評価とするため、交通ネットワークの在り方に関する検討会の検討結果により示される「交通圏」ごとの単位で協議会をグループ化し、評価・意見交換を実施しました。評価終了後は、「交通圏」全体の総評及び参加協議会を含めた出席者による交通圏意見交換を行い、各県ごとに県内全協議会の評価終了後、全体意見交換の時間を設けました。

なお、他の協議会の実施事業状況等についての知識や理解を深めるという観点から、自協議会以外の協議会の評価について、自由に傍聴できることとしました。

3. 二次評価の概要

(1) 地域公共交通確保維持事業

中部運輸局の二次評価においては、補助対象系統における定量的な目標の達成状況のみでなく、それを含む地域全体の公共交通網についての評価を実施することとし、補助対象系統が、接続する他の交通網に対してどのような影響を与えたか、全体の交通網においてどのような機能を担っているのか、また、地域の交通網の構築において協議会等はどうのような役割を果たしたか

等について評価を行いました。

(2) 地域公共交通調査等事業

地域公共交通調査等事業は、主に地域公共交通網形成計画等を策定するための調査を行う地域公共交通調査事業（計画策定事業）、地域公共交通再編推進事業（再編計画策定事業）と、地域公共交通網形成計画等に基づいて実施される利用促進及び計画の達成状況等の評価に係る地域公共交通調査事業（計画推進事業）、地域公共交通再編推進事業（再編計画推進事業）事業からなっており、計画策定にかかる事業である地域公共交通調査事業（計画策定事業）、地域公共交通再編推進事業（再編計画策定事業：今年度は対象者なし）については、計画策定を目的に実施される事業であることから、計画の策定につながる適切な調査であったか、その調査結果をどのように計画に結びつけたかについて評価を行いました。

また、利用促進及び計画の達成状況等の評価にかかる事業である地域公共交通調査事業（計画推進事業）、地域公共交通再編推進事業（再編計画推進事業）については、適切な利用促進策であったか、適切な達成状況等の評価が行われたかについて評価を行いました。

第三者評価委員会における委員からの特徴的な意見は、以下のとおりです。

- ・昨年度の第三者評価委員会において指摘した課題等の見直しが行われていない場合がある
- ・中部様式を市民が理解できる資料として作成し、施策の内容を市民に理解してもらうことが重要
- ・隣接市町との施策の整合や地域間幹線系統のネットワーク上の位置づけについて明確化すべき
- ・地域間幹線系統については「地域公共交通ネットワークの見える化」を推進しても、バスの需要が無いと利用者増加につながらない。このバス路線が何に使えるのか、ターゲットを絞って沿線自治体でPRする等の連携が必要。
- ・収支率の向上を目標値とするのはよいが、利用者数が減少している場合、利用者にとって社会的便益が低下し、公共性が失われている可能性がある。

なお、上記意見に対して、参加協議会等から「今後検討していきたい」等の前向きな回答がありました。

地域公共交通確保維持改善事業「第三者評価委員会」について

地域公共交通確保維持改善事業については、地域公共交通確保維持改善事業実施要領において、事業評価（自己評価及び地方運輸局等による二次評価）を行うこととされており、地方運輸局等による二次評価を実施する際には、学識経験者等からなる第三者評価委員会を設置して行うこととされています。

中部運輸局では、二次評価を実施するに当たって、学識経験者等からなる「第三者評価委員会」を以下により開催しました。

1. 第三者評価委員会委員

【学識経験者】

伊豆原 浩二	愛知工業大学客員教授（座長）
石川 良文	南山大学教授（委員）
加藤 博和	名古屋大学教授（"）

【行政】(国)

中部運輸局交通政策部長
中部運輸局鉄道部長
中部運輸局自動車交通部長
中部運輸局海事振興部長

2. スケジュール

平成30年2月20・21・22日

3. 第三者評価対象協議会数（重複有り）

(1) 地域公共交通確保維持事業

①地域間幹線系統	5 協議会
②地域内フィーダー系統	39 協議会
③離島航路	1 協議会

(2) 地域公共交通調査等事業

①地域公共交通調査事業（計画策定事業）	8 協議会
②地域公共交通調査事業（計画推進事業）	8 協議会
③地域公共交通再編推進事業（再編計画推進事業）	3 協議会

地域間幹線系統 事後評価要約版(30年度)

支局	No.	二次評価	
		自治体・協議会名	
		事業概要	
		自己評価	
		愛知県バス対策協議会	
		12事業者、62系統	
愛知	1	<p>・事業実施の適切性 A評価62系統。B評価、C評価は無し。</p> <p>・目標効果達成状況 A評価43系統。B評価は17系統。C評価は2系統。</p> <p>・市町村の地域公共交通会議において、地域間幹線も含めた議論を行うよう助言。</p> <p>・あいち公共交通ビジョン、英三河振興ビジョンなどの施策の方向性に沿った、市町村等が連携した公共交通活性化事業を実施。</p>	<p>事業評価票を補助対象系統ごとに運営主体が記載し、関係自治体に回付、作成する手法を取り入れることで、関係自治体間の情報・意見交換に活用してもらうとともに、関係自治体の協議会においても地域間幹線系統の利用状況等について情報交換を行う仕組みを作り上げたことを評価します。</p> <p>自治体と交通事業者が連携した地域公共交通活性化事業の実施など、広域連携事業を展開されることを期待します。引き続き「あいち公共交通ビジョン」に基づいた関係者の連携のもと、広域的な公共交通ネットワークが構築されることを期待します。</p>

<p>愛知県全体</p>	<p>委員1</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リニアについては、公共交通ビジョンにもかなり記載がある。もう少しビジョンのPRが必要かもしれない。 ● 新城～藤が丘高速バスがもつくる新城に乗り入れられないことは課題。 ● 外国の方はスマホで事前に調べて観光することが多い。外国の方が日本に来てバスに乗れるか、という視点での検討も必要。 	<p>委員2</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新城台藤が丘は若い人の利用が期待される。また、東海・半田・大府・常滑・美浜交通圏については、リニアからの波及効果が得られるようにPRに努めてほしい。 	<p>委員3</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 常滑半田線の半分を中部国際空港行きに切り替えた成果を知りたい。輸送量15人ぎりぎりだが、本来インバウンドに活用できる路線である。 <ul style="list-style-type: none"> → (県) 常滑南部線も活用できるようにしていきたい。 → (委員) のんびりとした路線だが、沿線に資源も点在しているので、ポテンシャルはあると思う。 → (県) 地域資源は色々あると思う。うまく活用していきたいと考えている。 	<p>運輸局</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光二次交通の推進は全国共通の課題。バス利用は単に翻訳するだけではなく、ネイティブの外国人による説明など利用者に確実に伝わるよう工夫が必要。 ● インバウンド対策として、オーブンデータ化も重要。でなければバスが走っていないのと同じになる。 <ul style="list-style-type: none"> → (県) 担当課がGTFS化を推進しているため、積極的に取り組んでいきたい。
--------------	--	---	--	--

<p>委員1</p>	<p>●今までの網形成計画の評価をして、次期計画に反映し、計画の内容についても中部様式に記載しておくことが大切。</p>	<p>委員2</p> <p>●かわら版のような地道な取り組みは将来に向けて重要。若い人を取り込みたい。送迎でバスに慣れ親しまない子供は大人になっても乗らない。発行回数も年に1回とのことだが、もっと増やして、若い世代の意識向上に頑張ってもらいたい。</p>	<p>委員3</p> <p>●魅力的な施設が点在しており、アクセスのためには乗り継ぎが必要となるので、乗り継ぎ環境の整備が大切となる。各路線での評価をするのではなく、ネットワークとして実際に乗り継いで利用しているかを評価すべきである。何か調査はしているか。 → (市) できていないので検討する。 → (委員) リモモと藤が丘線を幹として、他は支線的な役割で公共交通網を考えていけばよいと思う。利用しそうな市民ニーズにきちんと応えられているかという観点で評価してはどうか。 → (市) イオンができて移動ニーズが変わっている。福祉の家への移動ニーズもアンケートなどで調査をしている。これらを踏まえ、H33年4月に路線再編を検討している。</p> <p>●愛知医大はターミナルとして機能してきているか。 → (市) 案内が一部わかりにくいという声があるので、改善を検討する。 ●日進市、名鉄バスとの乗り継ぎは情報として分かるのか → (市) 尾三地区でGTFSを整備していく。</p> <p>●長久手南部が開発されてきているが、今後、南部地域の交通について何か考えているのか。 → (市) 若い人の多くはクルマに依存している。名鉄バスでの通勤利用は増加している。Nバスで残りをどうカバーするかを探っていきたい。</p>
<p>長久手市地域公共交通会議</p>			<p>運輸局</p>

運輸局	委員 3	委員 2	委員 1
	<p>●GTFS 化したので試しに主要な施設間で検索しても、徒歩の表示が結構出る。路線は接続されているが、どれも本数が少ない。せつかく上手くないなど、必ずしもダイヤ的に合っていないなど、必ずしも上手く乗り継いでもらえないところもあるかもしれない。渋滞もあるので、動的 GTFS も考えないといけない。乗換が考えられる区間であれば、乗り継げるダイヤを共同で作るといったこともやっていくべきである。名鉄バスが入っていないので、ものすごい迂回ルートが出る場合もある。広域の結節を改善するのはどういう方向で進めるつもりか？</p> <p>→(県) 路線バス事業者へも GTFS のお願いをしているが、全域では難しいと言われている。尾三の協議会で GTFS を実現してきたが、自主的にやってもらっているのか、結節については東郷セントラル地区をどう使っていくか、今後の推移を見守ってほしい。</p>		<p>●情報交換を盛んにやっている。名鉄バスも路線開設をするなど、積極的な圏域だと思ふ。自治体による GTFS が進んでいるので、名鉄バスにも GTFS に協力してもらい、一体となって次のステップに進んでほしい。</p>
瀬戸・日進・豊明交通圏			

調査事業(計画策定事業) 事業評価要約版(30年度)

支局	支局 No.	二次評価	
		自治体・協議会名	事業概要
		長久手市地域公共交通会議	自己評価
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通網形成計画の策定 ・公共交通会議運営補助等(会議資料の作成・取りまとめ) 	<p>今回の調査で地域データの分析や公共交通の課題の整理を行い、地域公共交通網形成計画の素案を作成したことを評価します。</p> <p>人口も増加傾向にあり、また、道路渋滞も発生していることから、自家用車での移動に頼らない公共交通ネットワークの確保が重要となってきます。</p> <p>第2次計画の策定となるため、前回の計画の検証をふまえた持続可能な計画の策定を期待します。</p>
愛知	2	<ul style="list-style-type: none"> ・12月17日の地域公共交通会議にて次期地域公共交通網形成計画の素案を提示し、1～2月のパブリックコメントを経て、3月に開催予定の地域公共交通会議に諮り策定する。 ・これまでに4回の会議を開催し、地域公共交通網形成計画の素案に至るまで協議いただいた。第5回では地域公共交通網形成計画(案)の最終確認及び承認をいただく。 	

地域内ライダーシステム 事後評価要約版(30年度)

支局 No.	自治体・協議会名 事業概要 自己評価	二次評価
	長久手市地域公共交通会議	
愛知	1 N-バス、中央循環線、三ヶ峯線	<p>市民記者による公共交通かわら版の発行など、市民主体の利用促進策を推進していることを評価します。</p> <p>次期公共交通網形成計画の更新に向け、市民や庁内関係各課との意見交換会を開催し、広く意見を集めていることを評価します。</p> <p>今後は現網形成計画の評価を踏まえ、広域性を視野に入れた計画策定・推進を期待します。</p> <p>尾三地区広域公共交通網の検討に向けて、近隣自治体で構成する協議会を立ち上げ、尾三地区広域公共交通基礎調査報告書を作成、広域でのコミュニティバスのオープンデモを推進など、広域で取組み、広域公共交通網に向けた検討を行っていることを評価します。</p> <p>今後は関係市町と連携した、公共交通ネットワークの構築を期待します。</p> <p>相次いでオープンした大型店舗の影響でN-バスを含めたバスの遅延が発生したことを踏まえ、関係者と連携し、特に土日の渋滞対策を今後も講じるとともに、バス事業者と連携して「長久手古藪駅」と「愛知医科大学病院」を乗り継ぎ拠点として南北に広域幹線軸が構築されたことを踏まえ、尾三地区において関係自治体と連携した、広域的な公共交通ネットワークを構築することを期待します。</p>

中部様式並びに本省様式による